

美幌総合計画策定

『びほろ』みらいまちづくり会議

第7期

美幌町総合計画

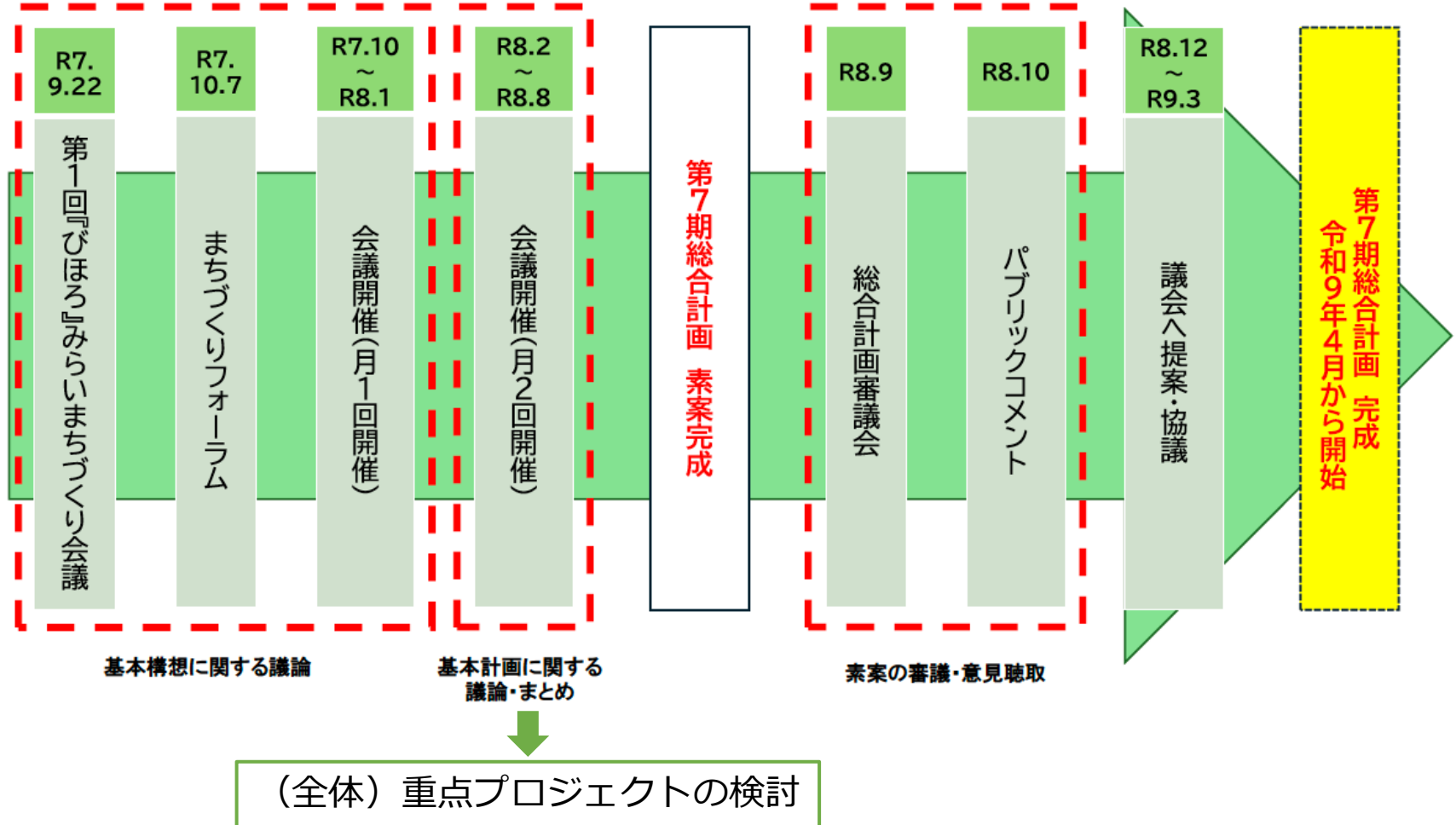
策定へ向けて 2027→2038

2026年4月23日

1. 策定経過の確認

策定スケジュール

現在地



2. 重点プロジェクトについて

人口減少が進行する中において 総合計画を動かすための“エンジン”

- 重点プロジェクトとは、人口減少の中でも将来像の実現に向けて優先的に取り組む施策を一体的なストーリーとして束ねたものです。
- 限られた人材・資源の中で効果的に取組を展開できるとともに、町民・企業など多様な主体が関わるテーマを明確にし、共創によるまちづくりを具体的に推進します。

2 総合計画推進に向けた3つの理念

①町民を主体としたまちづくりの視点(関わりたくなる)

- 人口減少や担い手不足を背景に、行政だけでは地域課題への対応が難しくなっている。
- 町民・企業・団体がそれぞれの関心や得意分野に応じて参加できる仕組みを整え、対話や支え合いを通じた主体的なまちづくりを進める。

②先進技術を活用したまちづくりの視点(チャレンジしたくなる)

- 人口減少で人材・資源に限られる中、デジタル技術や先進的な取組を柔軟に取り入れる。
- 情報発信・移動・生活支援などの利便性・効率性を高めながら、誰もが挑戦できる機会を創出し、持続可能なまちづくりを進める。

③多様な人々が暮らしやすいまちづくりの視点(暮らし続けたいくなる)

- 人口減少の中でも子どもから高齢者まで多様な人々が安心して暮らし続け、将来「戻ってきたいくなる」と思える環境をつくる。
- そのため、医療・福祉・雇用・交通・居住環境など生活基盤の充実を図りながら、互いの違いや状況に応じて支え合える包摂的なまちづくりを進める。

3 基本目標と理念

基本目標では、3つの理念に紐づいたプロジェクトを設定します。

人口減少のまちづくり
3つの理念

基本目標 1 (総務)	先進技術と協働による安心なまち運営プロジェクト
基本目標 2 (町民生活)	安心を紡ぐ生活基盤充実プロジェクト
基本目標 3 (福祉)	“支え合い”と“協働”で育てる共生社会プロジェクト
基本目標 4 (経済)	新たな「かたち」を育む産業循環プロジェクト
基本目標 5 (建設)	人が集い、にぎわう環境のある都市空間プロジェクト
基本目標 6 (教育)	人が輝き、育ち、学び続けられるまちプロジェクト

① 関わりたくなる

② チャレンジしたくなる

③ 暮らし続けたいくなる

基本目標 1 先進技術と協働による**安**心なまち運営プロジェクト

人口減少や社会環境の変化により、地域課題の解決にはデジタルなどといった先進技術、そして町民との協働が重要である。町民が安心して暮らせる環境、そしてその環境を提供するためには、先進技術の効果的な活用及び安定的な行財政運営を実現する必要がある。

■ 内容

① 町民と共に、よりよいまちづくりが行える仕組みをつくる

- ・人口減少が進む中では、町民の積極的な町政への参加が重要である。そのため、インターネットなど多様な手法による意見提出や、子どもから高齢者まで誰もが町の施策・事業を十分に理解し、意見を提出することができる仕組みなど、町民とともに進めるまちづくりを推進する。

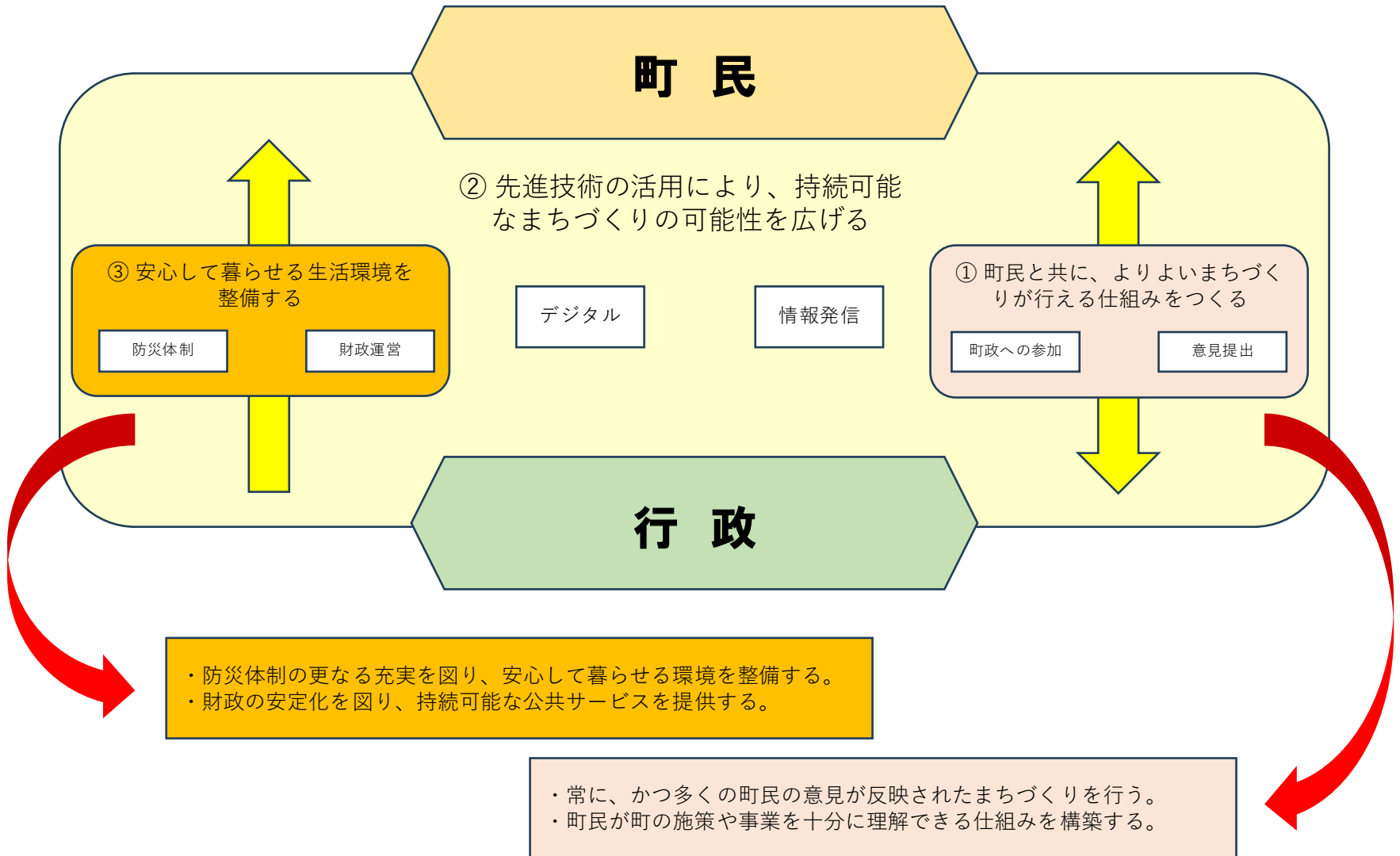
② 先進技術の活用により、持続可能なまちづくりの可能性を広げる

- ・人口減少下におけるまちづくりには、デジタルなど先進技術の活用が必要不可欠である。アプリの導入やポータルサイトによる町民への効果的な情報提供の検討、デジタルに特化したエキスパート職員の育成などにより、デジタル技術を向上させ、全ての分野において、人口減少下でも持続可能なまちづくりを推進することができる可能性を広げる。

③ 安心して暮らせる生活環境を整備する

- ・近年、全国的に増え続ける大規模災害に備え、先進技術・手法の活用により危機管理の徹底が重要である。そのため、個別避難計画による災害弱者への支援やアプリなど先進技術を活用した防災に関する情報伝達手段の向上について検討する。また、今後の物価高騰等による厳しい財政運営や新たな事業に対応するため、町内事業者との密接な連携によるふるさと納税の寄附向上を図り、財政の健全化に努める。

先進技術と協働による安心なまち運営プロジェクト



人口減少や高齢化の進行により、地域活動の担い手不足や住民の足となる移動手段の充実、住民を守る安全・安心対策の推進が課題となっている。そのため、地域住民同士のつながりを基盤としながら、公共交通網の機能維持と最適化、地域における防犯・交通安全対策の強化などの生活環境の充実を図り、住民一人ひとりが安心して暮らし続けられる環境を整える必要がある。

内容

① ゆるやかなつながりにより地域共助を育む

・高齢化や世帯構成の変化が進む中、住民一人ひとりのライフスタイルや関心に応じて、気軽に地域と関わり、無理なく互いを支え合う「ゆるやかなつながり」による地域コミュニティづくりを推進する。地域活動や交流の機会を通じて、住民同士が顔の見える関係を築くことで、いざという時に自然と頼り合える共助の土壌を醸成し、誰もが孤立せず、安心して暮らし続けられる支え合いの仕組みづくりを進める。

② アナログとデジタルの連携により生活の利便性を高める

・誰もが安心して移動し、日々の暮らしを送れるよう、これまでのアナログな「人と人とのつながり」や「既存の仕組み」を大切にしながら、利便性向上や効率化に資するデジタル技術を段階的かつ適切に導入のうえ、アナログの温かさとデジタルの利便性を融合させることで、住民誰もが取り残されず、それぞれのライフスタイルに合わせた選択肢を持つ、持続可能な移動・生活支援体制の構築を図る。

③ 安全・安心な暮らしを育み持続可能な地域環境を整える

・住民一人ひとりの防犯・交通安全意識の向上を促すとともに、地域住民、警察、関係団体、事業者など多様な主体が密接に連携のうえ「地域総がかり」での対策を推進して、誰もが安心して暮らせる、そして未来を担う子どもたちが健やかに育つ安全な地域環境を整える。

基本目標 3 “支え合い” と “協働” で育てる共生社会プロジェクト

少子化の進行、高齢化や単身世帯の増加により、「地域」でのつながりの希薄化や孤立、医療や生活への不安が課題となっている。そのため、多世代や障がい者を含めた様々な健康段階の人が関わる「つながりづくり」と「見守り」や「生活支援の仕組み」を一体的に進め、地域全体で支え合いながら、安心して暮らし続けられる環境を整える必要がある。

■ 内容

① 多世代がつながりを深め、支え合う場をつくる

- ・地域のつどいの場や交流活動、見守り活動などを通じて、多世代が日常的に関わり合いながら支え合う関係性を育むとともに、「顔が見える関係」や「笑顔で声をかけ合える」といった地域のつながりを推進・活性化する。

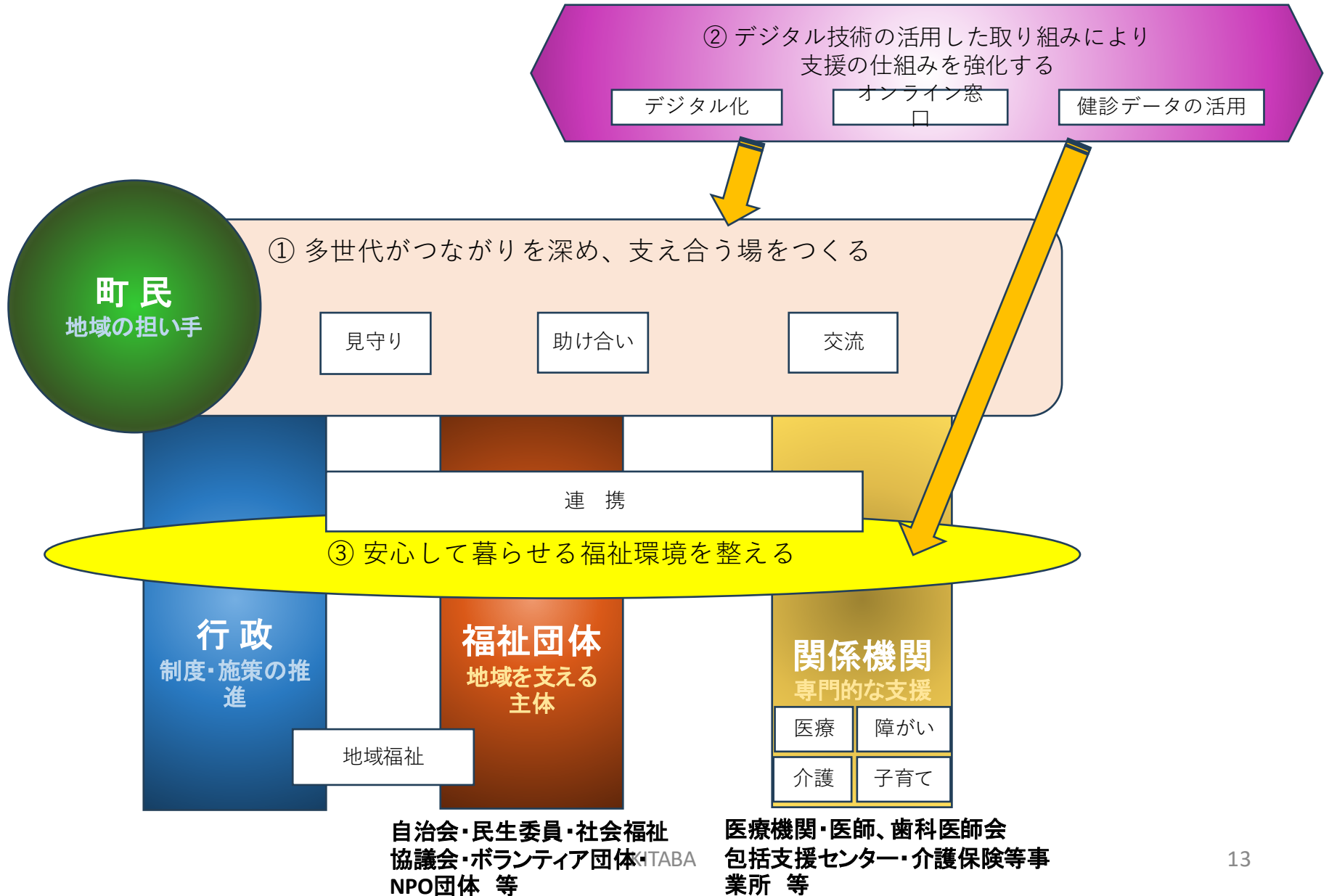
② デジタル技術を活用した取り組みにより支援の仕組みを強化する

- ・高齢化や単身世帯の増加、担い手不足への対応のほか、子育て世帯の支援を図るため、デジタル技術や地域の力を生かした見守り・生活支援の仕組みに加え、介護ケアのデジタル化やオンライン窓口の整備、健康診査データの分析・活用による健康づくりを進めながら、限られた人材の中でも地域全体で支え合う「まちぐるみ」の支援体制を構築する。

③ 安心して暮らせる福祉環境を整える

- ・子育て期から高齢期における生活の不安を踏まえ、保健・医療・介護・福祉の連携を強化するとともに、全世代を支える包括的な支援体制として、子育て世代から高齢者及び障がい者が安心して暮らし続けられる支援体制を整備する。特に、高齢期を自分らしく過ごすための健康増進を図る取り組みを実施しながら、将来にわたって安心して暮らせる環境整備を進める。

支え合いと協働で育てる共生社会プロジェクト



基本目標 4 新たな「かたち」を育む産業循環プロジェクト

産業の種別を問わず、労働力不足や後継者不足が顕著となり、人口減少の中で経済規模を維持することが困難な状況に置かれており、町民生活への影響をいかに最小限にとどめるかが最大の課題である。このような状況を踏まえ、町民、企業、団体、公的機関が効果的かつ効率的に役割を分担し、移住定住の促進や関係人口の創出、各産業の「掛け合わせ」によって新たな「かたち」を生み出し、持続可能な産業基盤を構築する。

内容

① 持続可能な産業の構築

- ・各産業において、先進技術や新たな取り組み、アイデアを積極的に導入し、生産性の向上および技術革新を推進する。また、本町の観光業は現在転換期を迎えており、農業・林業・飲食業など様々な産業との連携による相乗効果が期待されることから、これらの分野と連携した新たな展開を戦略的に進める。

② 新たな挑戦を育む

- ・各産業において、先進技術や新たな取り組み、アイデアを積極的に導入し、生産性の向上および技術革新を推進する。また、本町の観光業は現在転換期を迎えており、農業・林業・飲食業など様々な産業との連携による相乗効果が期待されることから、これらの分野と連携した新たな展開を戦略的に進める。

③ 観光を起点とした関係人口・移住定住の促進

- ・本町最大の観光資源である美幌峠を起点に、屈斜路カルデラトレイル、美幌みどりの村・峠の湯等の既存施設、基幹産業である農林業と連携することで、より深く本町に関わる関係人口を創出する。「訪れる人」が「関わる人」となり、やがて「住む人」へとつながる一連の流れを意識した一体的な取組を推進する。

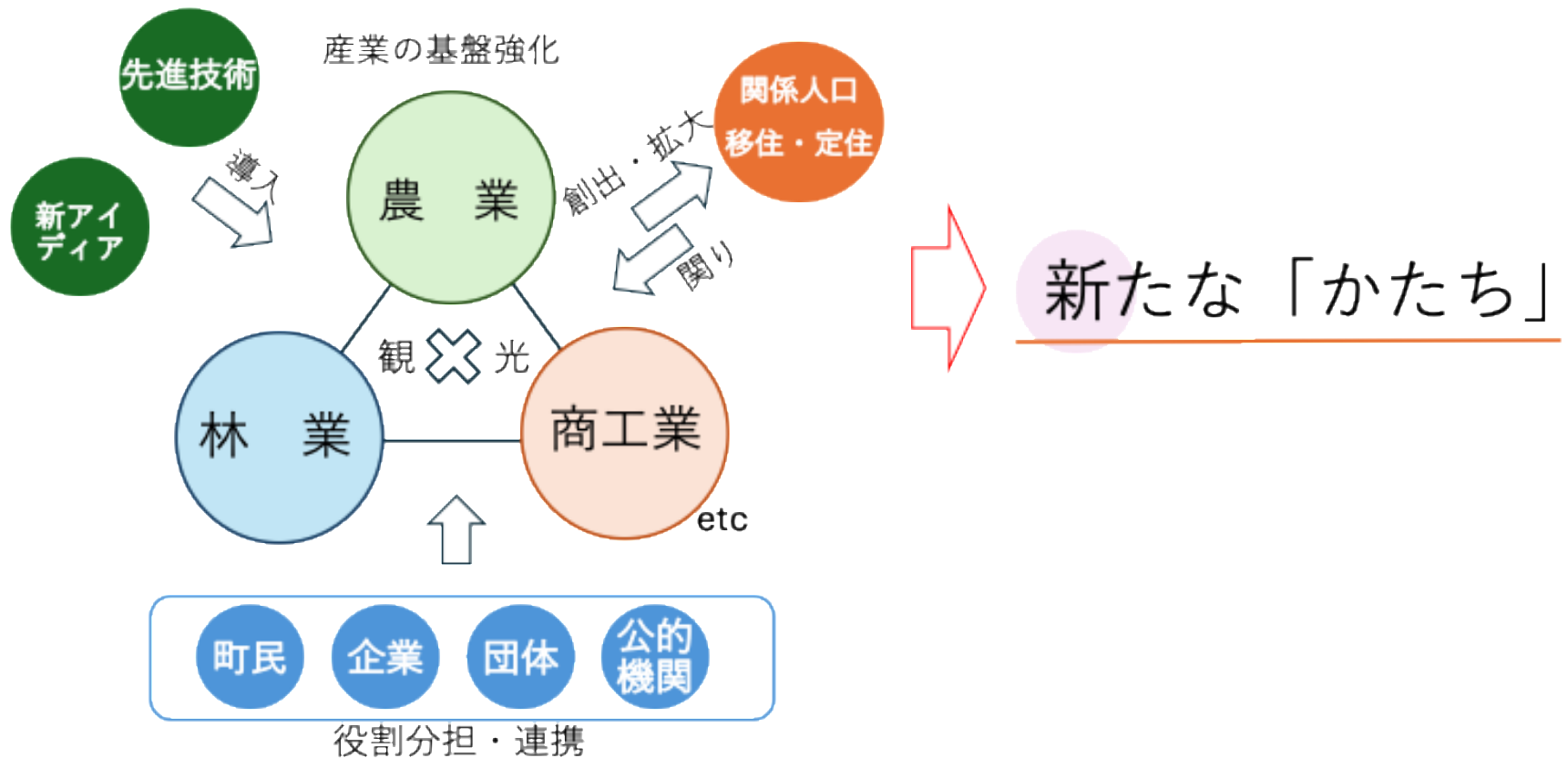
基本目標4 新たな「かたち」を育む産業振興プロジェクト

<課題> 人口減少 ⇒ 労働力不足・後継者不足 ⇒ 産業の衰退の危機



<課題解決に向けて>

- ①持続可能な産業の構築
- ②新たな挑戦を育む
- ③観光を起点とした関係人口・移住定住の推進



基本目標 5 人が集い、にぎわう環境のある都市空間プロジェクト

人口減少により、市街地の低密度化や空洞化が進み、まちなかのにぎわいや都市機能の維持が課題となっている。そのため、にぎわいの創出と都市機能の集約を進め、持続可能な都市構造への転換と、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを図る必要がある。

■ 内容

① 町民が関わるにぎわいの場をつくる

- ・ 中心市街地の空洞化やにぎわいの低下を踏まえ、まちなかや公共空間を活用し、町民や事業者に加え町外からの来訪者も含め、世代を超えて主体的に関わるイベントや日常的な活動を通じて、人が集い交流が生まれる場づくりを進める。

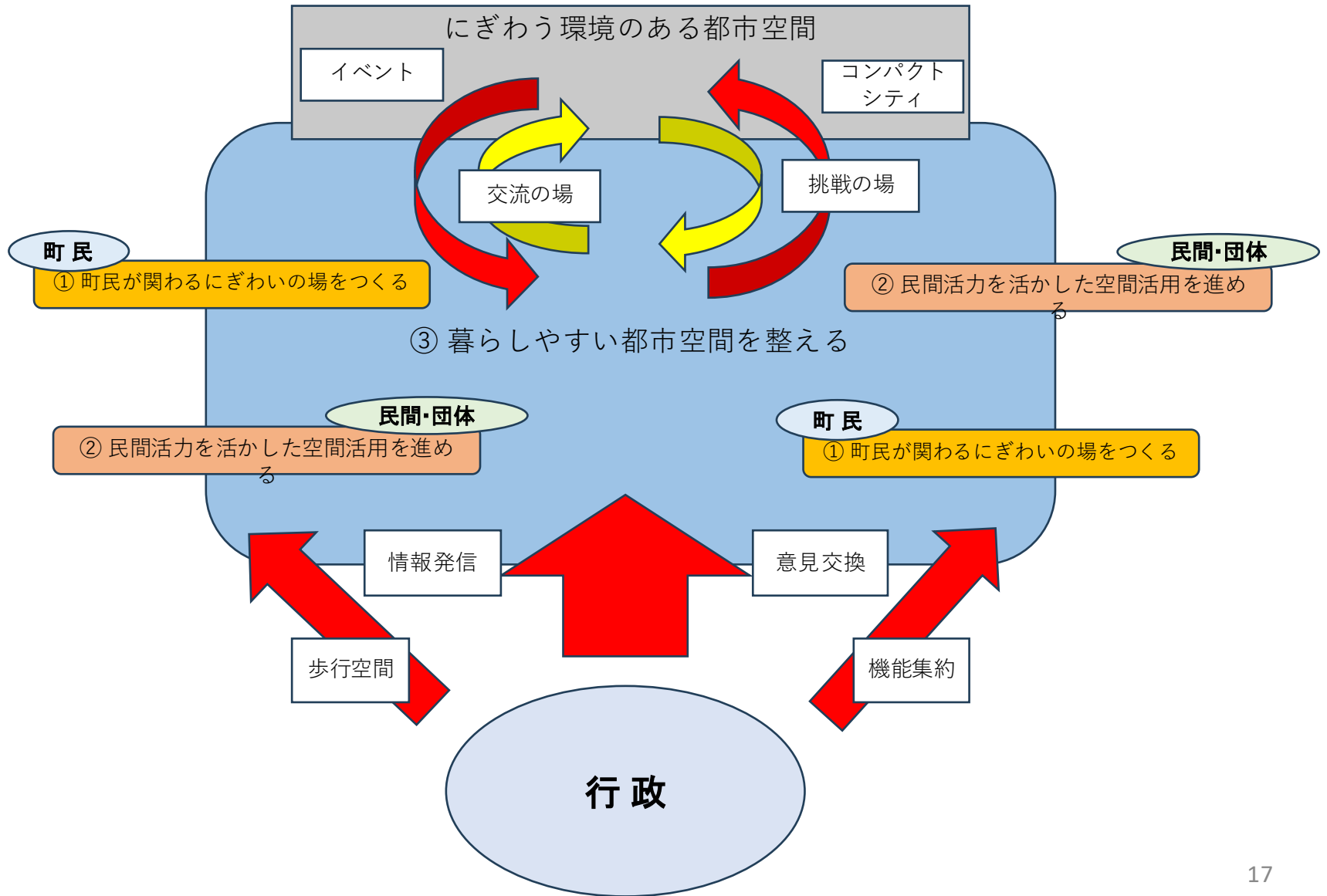
② 民間活力を活かした空間活用を進める

- ・ 空き家、空き店舗など未利用地の増加に対応し、リノベーション、起業、飲食及び地域活動などの新たな挑戦の場及び新たな空間活用手法を取り入れるとともに、官民連携やエリアマネジメントの視点を取り入れながら、持続的に活用される仕組みを構築し、民間活力も活かして都市機能の集約を図る。

③ 暮らしやすい都市空間を整える

- ・ 人口の変化に合わせたコンパクトなまちづくりを進め、生活に必要な機能の集約や歩行空間の充実を図り、災害リスクが低く誰もが安心して利用できる都市空間を整備する。

人が集い、にぎわう環境のある都市空間プロジェクト



基本目標6 人が輝き、育ち、学び続けられるまちプロジェクト

乳幼児期から成人期、高齢期まで、人生100年時代を心豊かに生きるため、学びの機会の充実を図ることが課題となっている。そのため、質の高い教育施策を切れ目なく展開し、郷土への愛着と誇りを持つ人材を育成するとともに、生涯を通じて学び続けられる環境を整え、すべての人が輝けるまちを創造する。

内容

① ふるさと美幌を愛し、夢を持って学ぶ機会をつくる

- ・地域の自然や歴史、産業、観光など「生きた教材」を活かした体験型の学びを充実させることで「ふるさと教育」を推進するとともに、自らも将来の「生きた教材」のような地域のサポーターとして活躍したいという夢を持ち、このまちと関わり続けたいと思える仕組みを整備する。

② 社会を生き抜くため・多様性を尊重した学びの機会を創出する

- ・子どもたちの良質な教育環境を整えるために義務教育学校を整備し、小中一貫教育を導入することで、未来に向かって創造的に考え、主体的に学び行動する子どもを育てる。また、いつでも、どこでも、誰もが学べる環境づくりを整備し、一人ひとりの個のスタイルに応じた学びの機会を創出する。

③ 生涯を通じて学び続けられる環境をつくる

- ・生涯学習の機会を深化させるとともに、子どもからお年寄りまで、誰もが楽しく元気に学び、活動できる機会を設け、「この町で学び続けたい」という意欲を高めるための環境を整える。

人が輝き、育ち、学び続けられるまちプロジェクト

愛着・誇り



夢を持つ



学び続ける

輝

③生涯を通じて学び続けられる環境をつくる

②社会を生き抜くため・多様性を尊重した学びの機会を創出する

良質な教育環境の
提供

主体的な行動を
育成

誰もが学べる
環境整備

小中一貫校

100年時代を心豊かに

①ふるさとと美幌を愛し、夢を持って学ぶ機会をつくる

ふるさと教育

地域人材
の活用

くらし続けたい
心の醸成

学んだ人が、
教える人に

ワークショップ

今日のワークショップ

①重点プロジェクトの内容について

- 共感や違和感のあるところ
- 不足している視点 などがあれば教えてください。

基本目標 1 共創で進める安心なまち運営プロジェクト

人口減少や社会環境の変化により、行政だけで地域課題に対応することが難しくなっている。そのため、町民、企業、団体など多様な主体が役割を分担しながら関わり合い、安心と信頼を築きながら、持続可能なまちの運営を実現する必要がある。

内容

① 町民・企業・団体が関われる仕組みをつくる

- ・人口減少や担い手不足が進む中では、町民一人ひとりが町政や地域活動に主体的に関わることが重要である。そのため、対話の場や意見交換の機会の充実、まちなかや公共空間等も活用しながら、町民、企業、団体が関われる環境を整備し、協働によるまちづくりの仕組みを構築する。

② つながりやすく、参加しやすい共創の環境をつくる

- ・人口減少や地域のつながりの希薄化に対応し、デジタル技術や新たな仕組みを活用することで、時間や場所にとらわれず、つながり、参加できる環境を整備する。情報発信や意見交換の手段を広げるとともに、町民や企業のアイデアを取り入れた共創の場を通じて新たな取組に挑戦し、関わる人の裾野を広げる。

③ 若者・外部人材が関われる機会を広げる

- ・若者の町外流出や担い手不足を踏まえ、地域おこし協力隊や地域活性化起業人などの外部人材の活用を行う。任期後も継続的に関われる仕組みを整え、多様な主体によるまちづくりの推進につなげる。また、次世代を担う子どもから若者が町政に参加できる取組を進めるとともに、地域課題の解決やまちづくりに関わる機会を創出する。

- 美幌町の実情に合っているか
- こういう視点があった方が良い
- この表現に違和感がある...など



今日のワークショップ

②重点プロジェクトの推進に向けたアクション

- 重点プロジェクトの推進に向けて、町民ができるアクション
- 町民・行政・企業との連携体制



参考事例の紹介

多様な人が関わる仕組みづくり

まこフェスプロジェクトミーティング（札幌市）

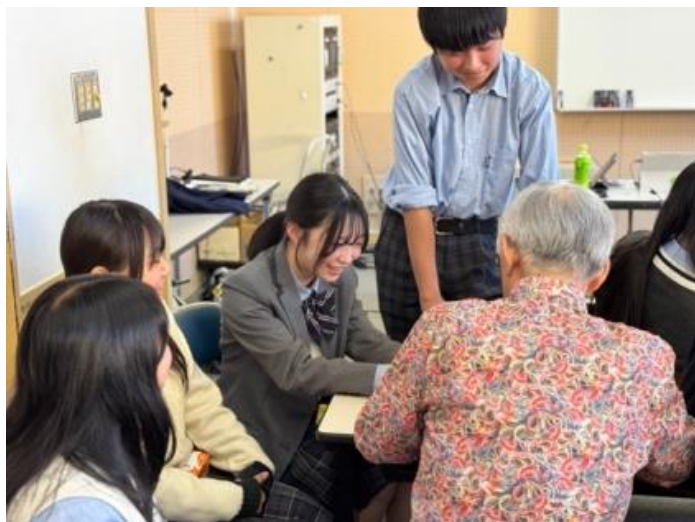
- 地下鉄真駒内駅前再開発に伴い、公共空間の活用やまちの魅力向上に取り組む市民のネットワークを構築。
- 秋のイベント「まこフェス」の実施を軸に、ワークショップを行いながら有志のメンバーが「やりたいこと」「できること」をプロジェクト化・実施運営。
- メンバーは地域住民や事業者のみならず、真駒内に関心のある方誰でも参加可能とし、LINEオープンチャットでゆるやかに繋がりながら活動している。



地域コミュニティのデジタル化

高校生によるスマホ講座（札幌市）

- 札幌創成高校ボランティア部の高校生が町内会役員にスマートフォンやLINEの使い方をレクチャーを行った。
- スマホの操作等についてわからないことや困っていることを気軽に聞くことができる体制をつくった。



多世代が集い、顔が見える関係をつくる場づくり

町内会館を居酒屋に(札幌市)

- 役員の担い手不足や自治会行事に対する参加者の固定化が課題だったことから、町内会館での居酒屋がスタート。
- 大学生なども手伝いに来てくれ、自治会に関わるきっかけになった。年に6回、奇数月の第3土曜日に開催している。
- 賃貸住宅やマンションの居住者も数多く参加しており、そこから町内会活動をサポートしてくれるメンバーも増えている。



地域との関わりが生む関係人口の創出

地元住民のガイドによるおもてなし(札幌市)

- まち歩きスポットガイドとして町内会など地域のことを昔から知っている住民が登場。
- 昔の地域の様子やエピソードを話したり、地元住民が行くお店を紹介するなど、旅行者と地元住民が関わることで、まちへの愛着が醸成される。



町民が関わるにぎわいの場づくり①

歩行者天国と公園でのイベント(札幌市)

- 公共空間を活用したにぎわいづくりとして、地域住民や地域内企業が連携したイベントを実施。
- 歩行者天国や路上を活用したモルック大会、キッチンカーの実施など住民や来街者が交流しながら、滞在できるにぎわいの場が創出された。



歩行者天国



路上でモルック



キッチンカー

町民が関わるにぎわいの場づくり②

高校生が主体となった雪あかりイベント(蘭越町)

- 冬期の市街地のにぎわいづくりのため、蘭越駅前周辺をスノーキャンドルで飾るイベント「らんこし雪わたり」を実施。
- ワークショップでのアイデアを元に、蘭越高校の高校生3人が中心となり、企画。商店街等の大人がサポートを行いながら運営した。
- 町内の企業や住民などから募金を募り、イベント実施費として活用した。

当日の写真は「らんこしゆきわたり」で SNSにアップ!!

らんこし ゆきわたり

かたゆきかんこ
しみゆきしんこ

1/31(土) **18:00~20:00**
※悪天候の場合 2/7に延期

キャンドルの灯りで
普段とは違った蘭越
見てみませんか?

参加者募集 気軽にチェック!!

スノーキャンドルを見るだけではなく、みんなで作りませんか?
親子での参加もOK!!
1/31(土) 13時頃スタート!!

詳しい情報はLINEオープンチャットにて配信予定

会場
駅・図書館周辺
ほか 町内各所

主催 蘭越まちづくりラボ×蘭越高校生有志



地域と関わる学びの機会

新たな遊び場づくりに一緒に学び、関わる 「ポロレンジャー」(南幌町)

- 南幌公園に併設される室内遊戯施設の建設に合わせ、子どもたちを「南幌戦隊ポロレンジャー」に任命し南幌町や南幌公園、室内遊戯施設のことを知り、魅力発信に取り組んだ。
- 南幌町や公園のことを知るクイズに挑戦したり、南幌町の魅力を表現したポスターの制作、室内遊戯施設の建設現場に飾るカボチャランタンの制作など、子どもたちがまちづくりを体験しながら関わる機会となった。



グループでの話し合いのルール

- ① 発言は1回、3分まで
長い話は印象に残りません
- ② 人の意見・アイデアを否定しないようにしましょう
- ③ 今日はたくさんの方のアイデアを出すことが目的です

グループ発表

主な意見を紹介してください

- 内容①については、~~~~という点について不足しているのではないかという意見がありました。
- アクションのアイデアとしては、~~~~~や~~~~~に取り組めるとよいというアイデアがあり、そのためには行政に~~を用意してもらい、企業に~~というような協力をしてもらえるとよいと思います。
- 内容②については、~~~~~